



Photostud

THE SAPPORO
NISAI STAKES

第59回 農林水産省賞典 札幌2歳ステークス (GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着
 本賞 31,000,000円 12,000,000円 7,800,000円 4,700,000円 3,100,000円
 付加賞 441,000円 126,000円 63,000円



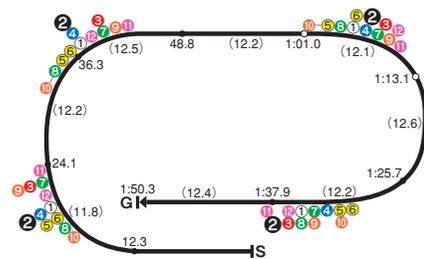
レース映像は
 コチラでご覧
 いただけます。

2歳
 負担重量 馬齢重量

2024.8.31 札幌 晴・重 芝1800m (国際 特種)

順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	マジックサンス	牡	2	55	佐々木大輔	1:50.3	6-6-6-2	36.6	500(-2)	4.3③	須貝尚介(栗東)	108
2	①	アルマヴェローチェ	牝	2	55	横山武史	ハナ	6-6-8-5	36.3	484(+2)	23.4⑥	上村洋行(栗東)	107
3	⑦	ファイアングランツ	牡	2	55	鮫島克駿	1½	11-11-10-5	36.4	440(-2)	3.5①	堀 宣行(美浦)	105
4	⑧	モンドラモーレ	牡	2	55	杉原誠人	3½	5-5-2-3	37.8	464(-2)	7.0⑤	千葉直人(美浦)	99
5	⑤	レーヴドロペラ	牝	2	55	大野拓弥	1¼	9-10-11-10	37.1	450(±0)	69.2⑪	加藤士津八(美浦)	
6	③	マテシウサン	牡	2	55	横山和生	クビ	2-3-4-3	37.9	498(-4)	6.4④	昆 貴(栗東)	
7	⑪	アスクシュタイン	牡	2	55	北村友一	クビ	1-1-1-1	38.4	490(+2)	3.5②	藤原英昭(栗東)	
8	④	ショウナンマクベス	牡	2	55	岩田康誠	½	6-6-6-9	37.8	484(+18)	23.7⑦	武市康男(美浦)	
9	⑩	ローレルオーブ	牡	2	55	斎藤 新	クビ	12-12-12-10	37.0	440(-8)	141.5⑫	杉山佳明(栗東)	
10	⑥	ニンノタンギー	牡	2	55	永野猛威	8	9-9-8-12	38.9	452(-8)	41.2⑧	水野貴広(美浦)	
11	⑨	トップオンザヒル	牡	2	55	菱田裕二	1¼	2-2-2-7	39.9	460(-10)	51.8⑩	岡田福男(栗東)	
12	⑭	バセリーナ	牡	2	55	丹内祐次	5	2-3-4-7	40.6	438(-2)	85.6⑬	松山将樹(美浦)	

単勝②430円(3¼%) 複勝②160円(3¼%) ①400円(6¼%) ⑥150円(1¼%) 枠連①-②3,950円(12¼%)
 馬連①-②4,070円(12¼%) ワイド①-②1,350円(14¼%) ②-⑧310円(1¼%) ①-⑧1,260円(13¼%)
 馬単①-②5,650円(22¼%) 3連複①-②④4,100円(14¼%) 3連単②-①⑧26,070円(87¼%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
 36.3 - 48.8 - 1:01.0 49.3 - 37.2

アラカルト

- ・佐々木大輔騎手は札幌2歳S初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算2勝目
- ・須貝尚介調教師はソダシで制した20年に続く札幌2歳S4勝目。JRA重賞は本年初勝利、通算50勝目
- ・キズナ産駒はJRA重賞通算31勝目
- ・牡馬の勝利は23年セットアップに続く通算47回目

マジックサンズ *Magic Sands*

牡 黒鹿毛 2022.3.25生
 北海道安平町 ノーザンファーム生産
 馬主・(有)サンデーレーシング 栗東・須貝尚介厩舎
 馬名意味・潮の満ち引きで砂浜が消えて見える、カイルアコナの神秘のビーチ

バレークイーンIRE系 F14

キズナ 青鹿毛 2010	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	キャットクイルCAN 鹿毛 1990	Storm Cat Pacific Princess
コナブリュワーズ 黒鹿毛 2010	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	アンブロワーズ 鹿毛 2002	フレンチデピュティUSA フサイチミニヨン

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4

INTERVIEW

高見優也 厩舎長(ノーザンファーム空港)

若いスタッフでも乗りこなせるような馬でした

乗り慣らしの頃から大人しく、若いスタッフでも乗りこなせるような馬でした。操縦性も高かったので、距離もあった方がいいと思っていました。新馬戦のあとは牧場で調整してきましたが、レースを使ったことによりオンとオフの切り替えもできるようになっていました。札幌2歳Sは競馬場で応援しましたが、接戦となったゴール前は思わず声が出ていました。

H.Kawai



見栄えのする好馬体を持つ本馬は7月に函館・芝1800mの新馬戦でデビュー。勝ちタイム(1分54秒0)こそ平凡ながら、ラスト3台は加速ラップが刻まれたレースを中団から悠々と差し切り、高い素質の一端を示していた。折り合いを欠く場面もあった初戦に対し、この日は鞍上とスムーズに呼吸を合わせた走りを持ちタイムを3秒7も短縮。札幌2歳Sのタイトルを大きな飛躍への一里塚とした厩舎の先輩レッドリヴェール、ソダシに続く勝利を飾った。

父キズナ

北海道新冠町 株式会社ノースヒルズ生産 中央、仏14戦7勝(日本ダービー^{G1}、大阪杯^{GII}、京都新聞杯^{GII}、ニエル賞・仏^{G2}、毎日杯^{GIII})、最優秀3歳牡馬、16年から供用。23年日本2歳リーディングサイヤー
 (代表産駒)ジャスティンミラノ(皐月賞^{G1}、共同通信杯^{GIII})、ソングライン(安田記念^{G1}2回、ヴィクトリアマイル^{G1}、富士S^{GII})、アカイト(エリザベス女王杯^{G1})、ディープボンド(阪神大賞典^{GII}2回、フォウ賞・仏^{G2}、京都新聞杯^{GII}、天皇賞(春)^{G1}2着3回、有馬記念^{G1}2着)、ハスラットレオン(ニュージランドトロフィー^{GIII}、ゴドルフィンマイル・首^{G2})、マルターズディオサ(チューリップ賞^{GII})、クイーンズウォーク(ローズS^{GII})、シックスセンス(スプリングS^{GII})、アスクワイルドモア(京都新聞杯^{GII})、ジューンテイク(京都新聞杯^{GII})、サンライズジバング(不來方賞^{JpnII})、他に重賞勝ち馬多数

母コナブリュワーズ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央18戦4勝(うずしおS、おおぞら特別、長万部特別)

カイルアコナ(17 牝父キンヤサノキセキAUS)中央18戦2勝(福島2歳S^{Op}2着)サドルロード(18 騾父オルフェヴル)中央4戦0勝
 コナブラック(19 牝父キタサンブラック)中央17戦3勝(札幌スポニチ賞)④
 コナコースト(20 牝父キタサンブラック)中央8戦1勝(桜花賞^{G1}2着、チューリップ賞^{GII}2着、エルフィンS・L2着)④
 コナウエリナ(21 牝父ミッキーアイル)中央3戦0勝

マジックサンズ 本馬(22 牝父キズナ)中央2戦2勝(札幌2歳S^{GIII})
 獲得総賞金38,641,000円

(23 流産)

(24 牝父アドマイヤマーズ)

祖母アンブロワーズ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央4勝(函館2歳S^{GIII}、ファイナルS^{Op}、ストークS、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}2着、ポートアイランドS^{Op}2着、アネモネS^{Op}3着)、23年用途変更

コナブリュワーズ(10 前出)

テオドル(13 騾父ハービンジャーGB)中央5勝(美浦S、三木特別、鹿野山特別)

ロシュフォール(15 牝父キングカメハメハ)中央4勝(アメジストS、tvk賞、新潟大賞典^{GIII}3着)

マジストラル(16 牝父ハービンジャーGB)中央1勝、地方2勝

接戦を制して無傷で重賞初制覇

有力候補の1頭と目されていたキングスコールが直前に回避。混戦ムードに包まれた札幌2歳Sはドウラメンテ産駒の2頭——同舞台のデビュー戦を快勝したファイアンクラッツと、新馬、コスモス賞を連勝中のアスクシュタイナー——が同じオッズ(単勝3・5倍)で1、2番人気を分けた。とはいえ勝利を飾ったのは3番人気のマジックサンズ。リーディングの首位を快走するキズナ産駒がハナ差の接戦を制し、クラシック候補に名乗りをあげた。

前日の夜から朝にかけて降った激しい雨の影響で11年ぶりに道悪(重馬場)を舞台に争われたレース。ゲートが開くと逃げの戦法で白星を重ねてきたアスクシュタイナーが外枠から意欲的に飛び出し、1コーナーで主導権を握る。マジックサンズの佐々木大輔騎手は中団の外を追走。対してファイアンクラッツは後方2番手でじっくりと末脚を温存した。

前の動きを見定めていた佐々木騎手は4コーナーから進出を開始。馬群の外々を回りながら、目を引く勢いと手応えで位置を上げたマジックサンズが、直線入口で早くも先頭に躍り出る。道中はその背後を進み、4コーナーで最内を突いたアルマヴェローチエがインから急襲し、残り200m地点からは2頭の追いつきに。出し抜く形で先頭に立ったアルマヴェローチエも最後までよく食い下がったが、馬場の真ん中を伸びたマジックサンズもしぶとく反撃。粘りに粘る相手をねじ伏せて勝利を手にした。

見栄えのする好馬体を持つ本馬は7月に函館・芝1800mの新馬戦でデビュー。勝ちタイム(1分54秒0)こそ平凡ながら、ラスト3台は加速ラップが刻まれたレースを中団から悠々と差し切り、高い素質の一端を示していた。折り合いを欠く場面もあった初戦に対し、この日は鞍上とスムーズに呼吸を合わせた走りを持ちタイムを3秒7も短縮。札幌2歳Sのタイトルを大きな飛躍への一里塚とした厩舎の先輩レッドリヴェール、ソダシに続く勝利を飾った。